

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立南鶴牧小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0034
東京都多摩市5-4-3

E-mail daihyo-minamiturumaki-sho@city.tama.ed.jp
Website <http://www.tama.ed.jp/s-tsuru/>

幼児児童生徒数 男子 275 名 女子 289 名 合計 564 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(記入例)

当校は、「かしこく なかよく たくましく」を学校理念として、ESD を「持続可能な社会を構成する大人づくり」と捉え、ESD の実践を通して持続発展な開発に関する価値観 (人間の尊重・多様性の尊重・非排他性) コミュニケーション能力の育成を目標とした。

具体的には、国際理解、福祉、環境を柱に、①地域に係わる活動、②福祉に係わる教育、③国際理解に係わる学習、④環境に係わる学習を行った。

① 地域に係わる活動

本校では、今年度、5 年生の総合的な学習の時間において「安心安全マップ」づくりに取り組んだ。自分達の住む地域をフィールドワークで巡り、安全なところ・危険なところを調べ、各方面別に模造紙一枚にまとめ、本校 1 年生に向けて発表した。自分たちの地域を違った視点から見ることで、より地域に愛着が沸き、よりよくしていきたいという感想を述べていた。○○○○○

② 福祉に係わる教育

全校児童を対象に「ひとときの和」の方々による講演を行った。また、5・6年生の児童に対しては、車いす体験や盲導犬とのふれあいなど体験学習を行った。また、福祉に関する学習活動としては、6年生の総合的な学習の時間に「ユニバーサルデザイン」の学習に取り組んだ。町の中にあふれるバリアフリーやユニバーサルデザインを発見し、それが何のためにあるものなのか理解することで、すべての人々が「住みよい町」になっていることを考えることができていた。

③ 国際理解に係わる学習

第5学年において総合的な学習の時間に「世界に広がろう」の学習を行った。ジャパンアートマイルを今年度も継続し、今年度は「台湾」の子どもたちと交流を行った。9月からテレビ電話やインターネットを利用し、交流を重ね、お互いの国の文化を紹介したり、絵のデザインを考えたり、随時報告をし合ったりと、仲を深めていった。12月に絵のテーマを決めて「友情」を題材に日本側が絵を描き、台湾に送付。3月には絵が完成し、日本に戻ってきた。この学習を通して、台湾だけでなく、他の国にも目を向ける児童が増えた。

④ 環境に係わる学習

第4学年の総合的な学習の時間では、「グリーンカーテン」の学習に取り組んだ。4月に地域の方々のゲストティーチャーをおよびして、ツルレイシに関する講話をして頂いた。校舎1階にツルレイシを植え、その冷却効果について調査を行った。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③アートマイルプロジェクト



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ジャパンアートマイル オリンピック読本

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

総合的な学習の時間に「ESD を中心テーマとして、自然や社会、他者との関わりを通して、主体的な学習を展開し、生きる力を育てる」と、位置づけている。

- ・地域の人材を活用し、農園体験やビオトープ体験、野鳥観察などの自然体験活動を行い、生命の大切さを学ばせる。
- ・環境教育を実践してエコについて学び、環境保全意欲や問題解決力の向上を図る。
- ・ユネスコ・スクールとして、日本や郷土の伝統文化を尊重し、他地域や外国の人々と交流し、コミュニケーション力を向上させ、豊かな人間性を育む。
- ・人権教育を基盤として、近隣大学と連携し、福祉や国際理解などの問題に主体的・創造的に取り組むことを通して、自己の生き方や他社との関わりを考えさせる。

その都度、指導方法の工夫改善を行っている。

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校の教育課程において、各学年に ESD カレンダーを設定している。各教科のつながりを大切に、各教科を単発で指導するのではなく、横断的に指導ができるようにした。その都度、確認をし指導が行えるようにしている。また、総合的な学習の時間や各教科の時間で活用できるよう「農園」「ビオトープ」などを整備している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の内部評価は、年 2 回実施している。全教員で実施し、その都度、会議を行って改善している。各教科においての教材や活用できる資材の充実を行っている。

学校外部評価は、12月に保護者・地域にアンケートをとり、実施している。回収率は、90%程度である。農園やビオトープの利用を肯定的に捉えている保護者の意見が多かったが、今後は、ICT 教材などの併用もしていくことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

多摩市のみらい会議で発行された冊子に紙面上で報告を行った。アートマイルプロジェクトに関しては、多摩市内でも取り組みを行っている学校は少なく興味をもっていたと感している。
また、同時にグリーンカーテンプロジェクトも紙面上で報告を行った。他校でもよく行われている取り組みで、見比べることができ、たいへん参考になった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

「ひとときの和」を行うにあたって、障がい者団体の方々に学校に来ていただいた。また、地域に在住している視覚障害者の方にもご来校頂き、第4学年に講話を行った。外国語活動では、恵泉女学園大学の学生の授業を行い、交流を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国外では、台湾の小学校と「ジャパンアートマイル」の取り組みで交流を行った。毎日のインターネット上でのやり取りだけではなく、テレビ会議を行うことで盛んな交流を行うことができた。国外の学校とつながれたことで、児童は他国に目を向け、視野を広げることができた。
国内のユネスコ・スクールとの交流は行うことができなかったため、今後の課題である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

農園体験やビオトープでの年間を通しての自然体験活動を実践することで、児童は意欲的に取り組むことができた。また、教員も場が常に整っていることで、指導が充実したものになった。また、オリンピック・パラリンピックの精神を学ぶことで、そこから国際理解の学習が進み、他国に目を向ける児童が多くなった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

総合的な学習の時間に「ESD を中心テーマとして、自然や社会、他者との関わりを通して、主体的な学習を展開し、生きる力を育てる」と、位置づけている。

- ・地域の人材を活用し、農園体験やビオトープ体験、野鳥観察などの自然体験活動を行い、生命の大切さを学ばせる。
- ・環境教育を実践してエコについて学び、環境保全意欲や問題解決力の向上を図る。
- ・ユネスコ・スクールとして、日本や郷土の伝統文化を尊重し、他地域や外国の人々と交流し、コミュニケーション力を向上させ、豊かな人間性を育む。
- ・人権教育を基盤として、近隣大学と連携し、福祉や国際理解などの問題に主体的・創造的に取り組むことを通して、自己の生き方や他社との関わりを考えさせる。

来年度は、多摩市みらい会議で国際理解をテーマに発表する予定である。また、今年度以上に自然体験活動を充実させていきたい。